# ヒッピー文化の意味

神　田　一　樹

私がヒッピーについて知りたいと思ったきっかけとしては、私自身が彼らのメッカ、ヘイトアシュベリーを訪れたことにあった。そのファッショナブルな街なみに興味を持ち、そこで彼らは60年代をどう生きたのかという疑問から始まるのだ。

彼らは、麻薬、ロック、乱れた性、奇抜なファッションなどを日常生活の中に取り入れ、過去のアメリカの管理社会を打破しようと、自然にありのままに生きるということを主張してきた。世の中の動き（ヴェトナム戦争、差別など）に対抗心を燃やしたのである。しかし、彼らが理想とする結果はついてくることがなく、ヒッピーはアメリカの普通の若者と同化する道をたどることとなる。それを受けて、何人かの学者などからは、ヒッピー文化はアメリカ60年代のトレンドにすぎないという見方さえでてきた。

そこで、私は言いたい。ヒッピー文化は意味があるものなんだと。それは、次のようなことから証明されるのではないか。私が影響を受けたヘイトアシュベリーも、ヒッピーがそこであらゆる活動をしてきたことによって、現在のようなものになったと言える。また、彼らが当時から叫んできた「自然に」ということが現在のアメリカの環境問題への関心というものに繋がっていくとは考えられないか。そして、決定的なのが、ヒッピーが60年代、管理社会の象徴ともいえるスーツを着ることを拒み、Tシャツ＋ジーパンというカジュアルな格好をしだした。そのカジュアルさをおし出したファッションが、アメリカに限らず世界で定着している。こうして、ヒッピー文化は現代のアメリカ文化の何かしらに影響し、反映されているのだ。

私はこの１年半、このヒッピー文化というテーマで色々と調べてきて、結果的に上記のように断言できることに達したのである。少し振り返ってみると、まず、ヘイトアシュベリーというファッションストリート、60年代のアメリカの若者のライフスタイル、ファッションなどという私の最も興味のあるものに沿いながら調べられたことが非常に大きかった。また、このヒッピー文化についてというテーマを、この中村ゼミの中で調べられたことも最高に楽しく、貴重なものであったと感じたことも、私なりの最終的結論である。　　（指導教員　中村　敦志）